

# 米国の高校における外国語教育の変化の可能性

——ハワイ州公立校の教科「World Languages」に焦点をあてて——

山本享史（天理大学）

## はじめに

本稿では近年の米国ハワイ州の外国語教育、主に教育改革の中で展開されるハワイ語に関する状況を報告し、言語教育のあり方に対する考え方の幅を広げる可能性を示唆する事例を取り上げる。

本稿ではハワイの外国語教育について論じるが、「外国語教育」の中にハワイ語教育も含めて論を進めるのは以下のような理由による。ハワイ語はネイティブハワイアン<sup>1)</sup>にとっては「外国語」ではない。しかし現実には、1893年米国によるハワイ王朝転覆以降、ほぼ消滅しかけた言語<sup>2)</sup>になり、親の世代もハワイ語が話せないために親から子への継承言語としても成り立っていない場合が多く、ネイティブハワイアンの人々にとっても新たに学び直す言語になっている。ハワイ語は英語と並んでハワイ州の公用語なので、英語が生活言語であるハワイの人々にとっては第二言語(L2)であるともいえる。一方で、後述する州中等教育においては、教科「世界言語(World Languages)」の中でスペイン語やフランス語、ドイツ語といった言語と並べて選択される一言語となっているため、外国語教育的側面も強く観られる。

言語教育研究においてハワイ語は次のような2点で興味深い。1つは元々の先住民言語であるハワイ語が衰退、主要言語が英語に取って代わられた後、1980年代からその復活の道を辿るという、英語帝国主義に関わる歴史的な観点、2つめは米国の中でも他州に比べ民族的多様性に富んだ地域であるハワイにおいてネイティブハワイアンの元々の言語でありながら、現在の学校教育の中では他の外国語と同様に選択言語の一つとして扱われており、言語学習の目的や目標、動機が大きな意味を持つという点である。この点に関し、多文化社会における外国語教育のあり方を検討することは、歴史的背景や言語環境も大きく異なるものの「実用」重視に進む日本の英語教育においても示唆に富むと言えるだろう。

本稿ではハワイ州の学校教育の中でも中等教育、特に高校段階を中心に扱う。一部、大学生を対象とした調査結果に基づいている記述もあり、また、幼稚園、小学校段階の初期学校教育はハワイ語教育においては外すことができない部分もあるため触れる箇所はある。第1節では米国全体、第2節ではハワイ州、そして第3節では高校での教科「世界言語」へと論を進める。

## 1. 米国全体の教育

まず、米国全体の教育動向の概略を述べる。米国では教育は州が責任を持つが、この数代の政権交代にもかかわらず、党を超えた教育改革の流れは非常に新自由主義的である。特徴は規制緩和と自己責任、説明責任、成果主義、競争原理に基づく資金の配分などである（吉良

2009:58)。

1983年に出された米国の生徒の低学力を報告した『A Nation at Risk (危機に立つ国家)』以降、子どもたちの学力向上のための教育改革の流れは、H.W.ブッシュ大統領の時代に構想され、政権が変わっても引き継がれてきた。2002年1月G.W.ブッシュ大統領によって署名され、成立した「どの子どもも取り残さない法 (No Child Left Behind Law: NCLB)」から2015年オバマ政権時代に施行された「全生徒成功法 (Every Student Succeeds Act: ESSA)」はいずれも州統一テスト (Standard Test) の実施や数値目標を明示し、取り組みの結果を公表、その成果に基づいて政府資金を配分するという点で共通している。国やその意向を受けて動こうとする州の教育に関する権限が強くなっているということが言えるであろう。ハワイ州は米国の中で、単一の州教育委員会のもとに公立学校が設置されている唯一の州である。この意味において教育に関しては元来中央集権的であるとも言える。

米国では1990年代以降、英語以外の言語能力向上への関心が高まっていると言われる。財界における外国語能力をもつ人材の雇用拡大、連邦の外交、国家安全、社会福祉分野における言語の専門家の不足、福祉の充実を求める地域社会からの要請等に加え、複言語能力保持者の認知的優位性の認識の広まりがその大きな理由とされている。大谷 (2012) も米国の近年の外国語教育に対する関心の高まりについて、母語と異なる言語を学習することによって得られる知的刺激の重要性が認識されてきていることを指摘している。

外国語教育に関して拝田 (2013) が米国の外国語教育理念を表す政策文書を分析している。それによると米国は「外国語教育の『教養』目的を重視しつつ、その『実用』性にも目を配っている」、「外国語教育は『大衆教育』かつ『外国語必修』が望ましいと考えている (拝田 2013:41)」とし、それに基づいた教育政策が打ち出されているのだという。

また「二言語使用者の証 (Seal of Bilingualism)」という表彰制度が各州で進んできていることも外国語学習や教育への関心の高まりを表しているように思われる。「二言語使用者の証」は高校卒業にあたり、英語に加えて他の言語でも学び、優秀であった生徒を表彰する州の制度である。2011年のカリフォルニア州を皮切りに、2021年現在、数州を残しほぼ全米で実施されている。図1の地図の中で、濃い色のところが制度を確立している州であるので、これを見れば、この動きがほぼ全米的あるのがわかるだろう。ハワイ州教育省のホームページによると、この表彰制度により受賞した生徒の数は2017年37から2020年は361となっており<sup>3)</sup>、州内においても外国語教育に対する関心の高まりがわかる。

## 2. ハワイ州の教育

### (1) Nā Hopena A‘o<sup>4)</sup>と 2030 Promise Plan

2015年からハワイ州ではハワイ文化を根底にした教育改革が行われている。ハワイ教育省は「ナ・ホペナ・アオ (Nā Hopena A‘o)」という総合的学校教育目標を公表し、連邦政府からの資金を受けて複数のプログラムによる取り組みを開始している。学校、学区が地域や他の教育機関と連携しながらさまざまなパイロットプロジェクトの開発、実施、評価フレームワーク作成等を進めてきている。2019年には「2030 プロミスプラン (2030 Promise Plan)」という実施計画も公表している。「2030 プロミスプラン」は「ナ・ホペナ・アオ」を具体化させるために



数は約1万人)と過去最高になったが、大学進学率の平均は2019年からやや下がり50%であった。大学進学率を民族グループで見ると、アジア系75%、白人系53%に対し、ネイティブハワイアンは35%とその差は明白である<sup>6)</sup>。より詳細に見れば、他にも割合が低い民族集団もあるが、加えて自殺率が高い、貧困家庭の生徒が多いなどの問題を抱えている<sup>7)</sup>。

## (2) ハワイ語学習と民族的多様性

ハワイにおけるハワイ語教育は、親世代からの継承言語教育の形でハワイ語に関わる生徒もいるが、ほとんどが第2言語として新たに学ぶ言語となっている。生徒だけでなく生徒の親たちが学ぶハワイ語教室も多く開設されているネイティブハワイアン集住地域もある。また近年はNPOを立ち上げ、ネイティブハワイアンの若者を文化と言語の面からサポートする取り組みも見られる<sup>8)</sup>。ハワイ語の教員も大学でL2としてハワイ語を学んだ人たちがほとんどである。ハワイ州でも教育に関わって「グローバル社会」という文言を出しながら教育施策を打ち出しているが、ハワイ語は多くの地域で話されている「共通語」ではなく、観光が主産業であるハワイにおいて日本語のように、経済的成功に直結するという点における「役に立つ」言語ではない。後述するが、実際、選択言語科目として日本語の設定をしている学校は多い。

近年のハワイの学校教育においてはハワイ語学習者の増加傾向が見られる。図2はイマージョン(学校全体の指導言語がハワイ語)で教育を行う公立の小学校、中学校、高校への入学者合計の推移である。公的資金を受け、任意の団体が学校を運営するというチャータースクールと、「クラ・カイアプニ(Kula Kaiapuni)<sup>9)</sup>」と呼ばれる通常高校の中に併設のイマージョン校や、イマージョンコースを持つ学校への入学者が増えてきているのがわかるであろう。

ハワイは民族的出自という点でかなり多様であり、例えば日系移民と言っても既に若者や子どもたちは5世、6世という時代になっている。民族集団を一つに限定するのも難しくなっている現状がある。ハワイでは複数の民族的背景を持つ新生児の割合が、全米で一番高いことが2017年6月のニュース<sup>10)</sup>で伝えられた。2010年～15年の期間に生まれた新生児のうち、ハワイでは、44%が複数の民族的背景を持っているとのことである。全米平均は14%なので、非常に高いと言える。

このような民族、文化的な背景の異なる家庭の状況もあり、新しくハワイにやってくる人たちも多いため、ハワイ州教育省は多文化主義に基づき、母語によって差別を受けたり不公平な扱いを受けないようにと英語による学習が困難な生徒には学校が母語によるサポートをすることを義務付けている。これは言語アクセスを保障する米国全体の方針であり、ハワイ州ではEnglish Language Learner (ELL) Program と呼ばれている。全ての学校のホームページには、無料で言語支援を受ける権利があることが、中国語、日本語、ハワイ語、朝鮮語、イロカノ語など14の言語で示されている。多くはないが、この範疇でハワイ語の学びに関わるネイティブハワイアンの生徒もいる。

次項では上記の状況を踏まえて、ハワイ州教育省の言語教育に関する姿勢を概観する。

## Growth in Enrollment in Hawaii's Public Immersion Schools

In the last 5 years, immersion enrollment shot up nearly 40% in DOE schools and 21% in public charter schools.

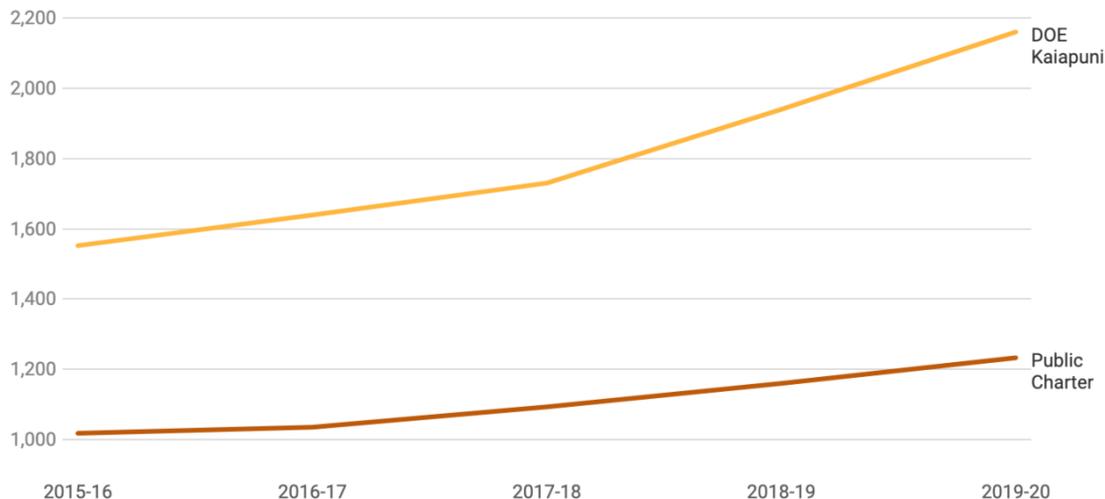


Chart: Suevon Lee • Source: Hawaii Department of Education • [Get the data](#) • Created with [Datawrapper](#)

図 2: ハワイ語イマージョン校への入学者数の推移 (出典: ハワイ教育省ウェブサイト)

### (3) ハワイ語の学びへのアプローチ

州教育省が提供する公立の学校におけるハワイ語の学びへのアプローチは次の3層になっている。

1. ハワイ文化に基づいて設立された公立チャータースクール  
2020年現在、州内公立小学校、中学校、高校を合わせた294校のうち、チャータースクールは37校あるが、ハワイ文化に基づく学校は23校である。そのうち6校はハワイ語イマージョンで教育を行なっている小中高一貫校である。
2. クラ・カイアプニ (Kula Kaiapuni)  
ハワイ語イマージョン校、イマージョンコースを持つ学校。州内では2020年現在26校。
3. 通常学校の教科「世界言語 (World Languages)」の選択言語の一つとして。

ハワイ州総合的学校教育目標の「Nā Hopena A‘o」には Belonging (所属感)、Responsibility (責任感)、Excellence (卓越性)、Aloha (自己、家族、共同体を尊重できるアロハの感覚)、Total Wellbeing (健康的な生活)、Hawai‘i (ハワイの地元感覚) という6つの柱がある (山本 2019:81) が、ハワイ語を含む言語教育に関する考え方は教育目標を実行に移す Promise Plan においては、ハワイの地元感覚を高めるための「Hawai‘i」の節の中で示されている。「‘Ōlelo Hawai‘i」、**「Multilingualism」**、「Civic Engagement」という3つの項目である。

「‘Ōlelo」とはハワイ語で「言語」のことだが、「‘Ōlelo Hawai‘i」では先ほど触れたハワイ語教育への複層的なアプローチのことが述べられている。具体的方策として、ハワイ語指導の資格を持つ教員の増加、学校外の教育機関との連携強化に加え、義務教育段階の連続したプログラムの確立、オンラインやハイブリッド型の教育方法の模索、文化に根ざした教材開発、家庭

の要求に合うような文化的儀礼や言語習得方法の模索、卒業後の進路開拓などが挙げられている。「Multilingualism」では、ネイティブハワイアン文化も含め、多様な文化価値に重点を置くという姿勢をとり、① Kaiapuni Program、② Seal of biliteracy、③ English Learner (ELL) Program、④ World Languages の充実、を挙げている。方策として国際的な交換パートナーシップの確立、2言語以上が使用できる教員の増員、Dual-language Program の教材や指導方法の開発についても述べている。また同時に「Civic Engagement」という項目では生徒の生活コミュニティとの連携強化が謳われているところから、生徒たちの出自民族言語の使用の積極的な活用が考えられていることがわかる。

「Multilingualism」の取り組みには対象者や重点の置き方にそれぞれ特徴がある。ネイティブハワイアンの生徒にとっての民族的アイデンティティに関わるのが Kaiapuni Program であり、受講者の多くはネイティブハワイアンでありながらハワイ語、先住民文化から離れてしまっている生徒たちである。Seal of biliteracy は外国語のエリート育成に重点を置いており、英語での学校生活に困難を抱える様々な生徒の公正を目指す言語保障として English Learner (ELL) Program が存在する。Seal of biliteracy と ELL Program については米国全体の外国語教育に対する関心のあり方やハワイの教育課題のところで触れた通りである。そして大半の生徒たちにとっての外国語へのアクセスとして World Languages がある。この① Kaiapuni Program、② Seal of biliteracy、③ English Learner (ELL) Program についてはそれぞれの領域で実践報告や実態調査があるが、通常学校における④ World Languages 内のハワイ語教育についての研究は少ない。

### 3. 「世界言語 (World Languages)」

#### (1) 科目設置状況調査

教科「世界言語」は全米的に高校で設置されている教科だが、ハワイ州公立高校ではどのような状況なのだろうか。本節では「世界言語」における言語科目の設置状況について確認した結果を述べる。

ハワイ州の通常高校において「世界言語」は「美術 (Fine Arts)」、「職業教育 (Career and Technical Education: CTE<sup>11)</sup>」、「JROTC<sup>12)</sup>」との選択教科に位置づけられており、言語を取る場合は2年間同じ言語を学習する。

各学校には年度始めに生徒たちが履修科目登録を行うための Registration Guide や Course Description と呼ばれるガイドブックがある。近年はそのほとんどがウェブ上で公開されている。図3はハワイ島にあるヒロ高校のもので、科目の内容説明や履修の条件などが書かれている。

「世界言語」に関しては図3のように開設している言語の科目と授業概要が記されている。州教育省は「世界言語」の選択言語として「スペイン語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「イロカノ語」、「日本語」、「韓国・朝鮮語」、「中国語」、「ロシア語」、「サモア語」、「アメリカ手話」と「ハワイ語」の11言語を示しているが、各学校が生徒のニーズや指導方針に応じて言語科目の設定を行うことになっている<sup>13)</sup>。

### WORLD LANGUAGES

All foreign languages are offered as a year course of 2 semesters.

<p><b>SPANISH 1 (1 Yr. – 1 cr.)</b> "Speed Spanish" is used in this introductory course. This system teaches the student to speak basic Spanish by learning seven key speaking strategies that relate to our own English language. Basic greetings, colors, numbers, telling time, and the verbs <i>ser</i> and <i>estar</i>, in addition to cultural topics, are covered in the textbook, <i>Avancemos 1</i>.</p>	<p><b>WES1000</b></p>	<p><b>HAWAIIAN 1 (1 Yr. – 1 cr.)</b> This course begins with simple greetings, courtesy expressions and classroom expressions. Students learn through guided practice, pairings and group collaborations and will present what they learn on a variety of topics such as family, everyday life and self. Students will learn how to understand, speak, read and write the Hawaiian language and at the same time be immersed in the values and customs of the Hawaiian people.</p>	<p><b>WPH1000</b></p>
<p><b>SPANISH 2 (1 Yr. – 1 cr.)</b> Spanish 2 begins with a quick review of the seven basic strategies of "Speed Spanish." The uses of the verbs <i>ser</i> and <i>estar</i> are practiced. The study of grammar deepens with the introduction of the conjugation of regular, irregular and stem-changing verbs in the present, preterite and imperfect past tenses to improve communication skills. <b>Successful completion of Level 1 with a "C" or better is recommended.</b></p>	<p><b>WES2000</b></p>	<p><b>HAWAIIAN 2 (1 Yr. – 1 cr.)</b> This course is a continuation of Level 1. Students will continue to build and enhance their Hawaiian language skills through the use of comparisons in order to understand the similarities and differences of the language with other languages. Students learn to communicate (orally/written) using memorized sentence patterns and practice their skills through hands on learning activities and games like the Makahiki. Students will participate in a Makahiki tournament between other classes this year. <b>Successful completion of Level 1 with a "C" or better is recommended.</b></p>	<p><b>WPH2000</b></p>
<p><b>SPANISH 3 (1 Yr. – 1 cr.)</b> Spanish 3 begins with a review of the preterite and imperfect past tenses. The study of grammar intensifies with the comparison of the preterite and the imperfect, and the introduction of the future and conditional tenses which are required in order to understand different genre of authentic literature. The challenge is to incorporate these new grammatical structures in reading, writing and speaking. <b>Successful completion of Level 2 with a "C" or better is recommended.</b></p>	<p><b>WES3000</b></p>	<p><b>HAWAIIAN 3 (1 Yr. – 1 cr.)</b> This course is a continuation of Level 2 and includes topics such as career skills, community interaction, currency, etc. Students will strengthen their speaking, writing and understanding of the Hawaiian language through visits to Hawaiian immersion schools in the community. <b>Successful completion of Level 2 with a "C" or better is recommended.</b></p>	<p><b>WPH3000</b></p>

図3：Course Description 例 (出典：Hilo High School Registration Guide 2018-2019)

今回、High School と名前のついた州内公立高校(9/10-12 学年)34 校について、履修登録ガイドブックをもとに各学校の「世界言語」の開講言語科目がどのような状況であるのかを確認した。ハワイには幼稚園や小学校も含めて公立の学校は300校弱あるが、小中高の一貫校、中高一貫の学校もある。今回はできるだけ一般的な状況を確認するために高校(High School)部分で独立している学校を対象とした。小中高一貫校は人数の少ない地域の小規模校であったり、接続の意識が高いので、純粹に高校部分の学習内容の抽出が難しいためである。High School であっても独自の建学の趣旨をもつチャータースクールは除外した。34校を調べたが、履修登録ガイドブックを入手できなかった学校もあったので、確認できた実数は26校である。

高校別の開講言語科目の一覧が図4である。各学校では州教育省が指定する11の言語のうちから学校の状況に合わせて言語科目を開設することになっているが、実際に開設されていたのは「アメリカ手話(American Sign Language)」も含めて9言語であった。それぞれの言語1234の後にあるAPというのはAdvance Placementで、大学の単位にも認定される進学に向けた科目になっている。

開設されている言語科目ごとに整理したのが図5のグラフである。最も多いのが「スペイン語」である(Spanish 1: 96.2%、Spanish 2: 96.2%)。その次に「日本語1」と3年目の「スペイン語3」(Japanese 1: 92.3%、Spanish 3: 92.3%)。そのあと Japanese 2: 88.5%、Japanese 3: 84.6%、Japanese 4: 76.9%と続く。つまりハワイ州の高校において外国語といえば、「スペイン語」と「日本語」ということがわかる。

全米のCensusによると家庭内で使われている言語は英語以外ではスペイン語が最も多い。外国語教育を学び、教員をめざす学生にもスペイン語圏出身者が多く<sup>14)</sup>、国内の「世界言語」クラスを担当する教員の半数近くはスペイン語を教えているというデータ<sup>15)</sup>もある。米国で外国語学習といえば、まずスペイン語となっている現実、養成される教員の傾向を考えれば、ハワイ州でも外国語科目として設定言語にスペイン語が多くなるのはうなずける。また、ハワイ社会における日系人の歴史、近年のハワイへの日本人の渡航者数を考えれば、実用という点から日本語が多くの学校で設定されることについても理解ができる。

	Hawaiian 1	Hawaiian 2	Hawaiian 3	Hawaiian 4	Japanese 1	Japanese 2	Japanese 3	Japanese 4	Spanish Ap	Spanish 1	Spanish 2	Spanish 3	Spanish 4	Chinese 1	Chinese 2	Chinese 3	Chinese 4	French 1	French 2	French 3	French 4	Iokano1	Iokano2	Iokano3	Iokano4	Korean Ap	Korean 1	Korean 2	Korean 3	Korean 4	German 1	German 2	German 3	German 4	Sign Language 1	Sign Language 2	Sign Language 3	Sign Language 4	
1/ Acal High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2/ H.P. Blyden High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3/ James Campbell High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4/ James O'Connell High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5/ W.F. Fairgton High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
6/ Yamaki High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7/ Henry Kaiser High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
8/ Kilauea High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
9/ Kapapa High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10/ Kapaolei High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11/ Keali High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
12/ Kealahou High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
13/ Keolu High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
14/ Kohala High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
15/ Kona High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16/ Laharua High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
17/ Lelehae High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
18/ Mui High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
19/ Makolea High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
20/ Milani High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
21/ Mokuauia High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
22/ Mokuia High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
23/ Pearl City High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
24/ Puuhou High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
25/ Roosevelt High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
26/ Hilo High School	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Frequency	18	18	16	14	2	24	23	22	20	5	25	24	17	7	7	5	5	1	9	9	7	7	0	1	0	0	2	2	1	0	2	2	1	1	0	1	0	0	
%	622	622	615	598	77	923	885	846	769	192	952	922	654	269	269	192	192	38	346	346	269	269	0	38	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(筆者作成)

図 4：高校別選択言語科目一覧（34 校中判明分 26 校）

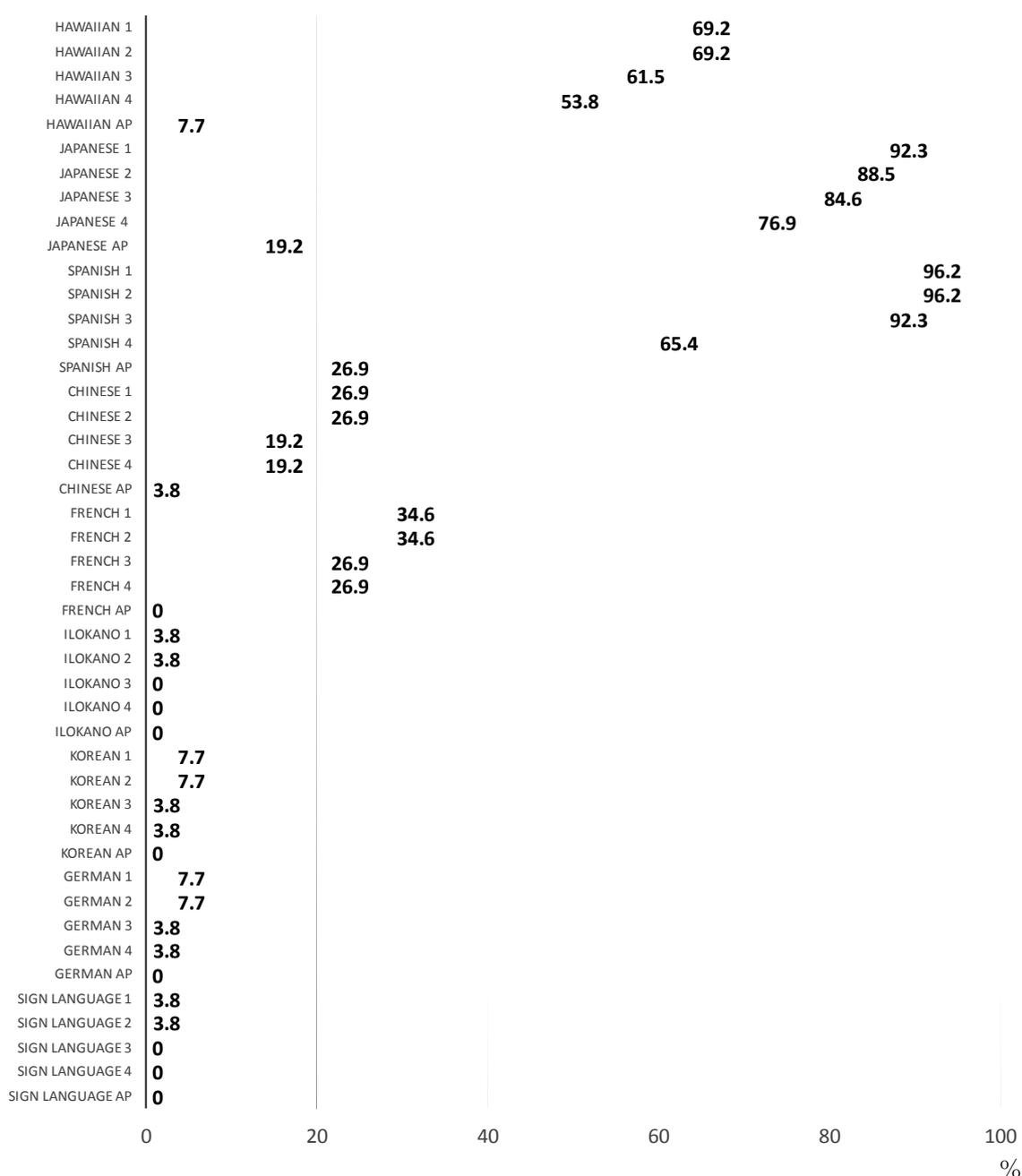


図 5 : 選択言語科目開講の割合

(筆者作成)

「スペイン語」「日本語」の次にくるのが、「ハワイ語」である (Hawaiian 1: 69.2%、Hawaiian 2: 69.2%)。以下、Spanish 4: 65.4%、Hawaiian 3: 61.5%、Hawaiian 4: 53.8%と続く。「フランス語」、「中国語」は 25~30%、「韓国・朝鮮語」、「ドイツ語」は 10%未満である (French 1: 34.6%、French 2: 34.6%、French 3: 26.9%、French 4: 26.9%、Chinese 1: 26.9%、Chinese 2: 26.9%、Chinese 3: 19.2%、Chinese 4: 19.2%、Korean 1: 7.7%、Korean 2: 7.7%、Korean 3: 3.8%、Korean 4: 3.8%、German 1: 7.7%、German 2: 7.7%、German 3: 3.8%、German 4: 3.8%)。

開講言語科目の設置状況はこのようになっているが、先述した通り「世界言語」教科は「Fine Arts」や CTE といった他科目との選択になるため、各学校における実際の受講者数の多少が必

ずしもこの割合に反映されているわけではない。

「ハワイ語」は約7割の高校で設定されているが、チャータースクールや Kaiapuni Program の増加の傾向からみると通常高校においても言語設定する学校は増えてきているのではないかと考えられる。ただ、「ハワイ語」の設置がいつからどの程度増加してきているのかについては明らかではない。今回の調査は2019、2020年に履修登録をする生徒たちに向けた履修登録用に作成されたガイドブックを全校、確認していったものだが、古い年度のものについては十分入手できていないためである。資料として筆者の手元にあるのは、過去に現地の学校訪問で入手できた1996年、2010年の数校分(ヒロ高校、ワイアケア高校、カイクキ高校、ラウパホエホエ高校)だけである。これらの学校においては、設置言語がほぼ今と同じであったり、「ハワイ語」以外の言語に入れ替わりがあったりするだけだからである。わずかながら、確認できるのはハワイ島のワイアケア高校の例である。ワイアケアは日系の人たちが多い地域だが、1996年に設定言語に「ハワイ語」はないが近年のガイドブックには追加されている。2020年1月にホノルルで開催された教育学会<sup>16)</sup>で筆者と同席したカポレイ高校の先生の話では、カポレイ高校では2018年入学者の選択言語は「ハワイ語1~4」、「日本語1~4」、「スペイン語1~4」、「サモア語1~4」であったが、2019年からは「ハワイ語」希望者が増え、「サモア語」はなくなったとのことであった<sup>17)</sup>。彼によると「ハワイ語」受講希望者の増加傾向は他校でも見られるはずだとのことであったが、これは確認できていない。

## (2) カポレイ高校の事例

「世界言語」教科におけるハワイ語選択に関して一つ興味深い例を挙げる。カポレイ高校はオアフ島第二の都市と言われる西部の街カポレイにある比較的新しい高校である。チャータースクールやカイアプニの高校ではなく、「世界言語」教科の中でハワイ語を選択させている学校である。どの学校でも履修登録ガイドには選択言語指導を行う上での授業形態や扱う内容に関する説明が記述されているが、受講資格を課すところは見られない。しかし、興味深いことに、カポレイ高校では、次の示すように、「ハワイ語」受講の前提条件(prerequisite)が「ホオラ(Ho'ola)」と呼ばれる「Natural Resources Pathway(天然資源コース)」を履修している生徒となっているのである。

Hawaiian 1 1 credit

Prerequisite: Enrolled in Natural Resources Pathway (Ho'ola)

This is an introductory course that covers pronunciation, basic vocabulary, simple dialogue, elementary grammar, and cultural appreciation. Emphasis is on listening, speaking, reading, and writing skills. Culture is studied through magazine and newspaper articles, audio-visual presentations, dialogues, and class projects. (Kapolei High School Course Description 2020-2021)

ハワイ語1 1単位

前提条件：天然資源コース(ホオラ)を履修していること。

発音、基本的な語彙、簡単な会話、初歩的な文法、文化の理解などを学ぶ入門コースである。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルに重点を置く。雑誌や新聞の記事、スライド等を用いたプレゼンテーション、対話、クラス・

プロジェクトを通して文化を学ぶ。(訳は筆者)

「ホオラ (ho‘ola)」はハワイ語で「生命(life)」を意味する。pathway (コース) は他にも「ビジネス」、「エンジニアリング&デザイン」、「ヘルスキャリア」、「公務員」、「教育工学」などさまざまあるが、このコースは環境や生物、農業、漁業等に関わる、いわゆる理科系の教科内容も含むコースである。登録ガイドには次のようにコースの説明がなされている。

#### Natural Resources

Students will be introduced to concepts in agriculture, earth sciences, environmental sciences, fisheries, and forestry. The following concepts will be covered: 1) Scientific process & systems; 2) Technology and Biotechnology; 3) Natural Resources Management; 4) Environmental Protection; 5) Legal Responsibility and Ethics. (Kapolei High School Course Description 2020-2021)

農業、地球科学、環境科学、漁業、林業の概念を学ぶ。授業では1) 科学的プロセスとシステム、2) 技術とバイオテクノロジー、3) 天然資源管理、4) 環境保護、5) 法的責任と倫理、といった概念を取り上げる。(訳は筆者)

ハワイに育つ植物や気象などの自然環境、農業、漁業、森林の利用やバイオテクノロジーといったことを学んでいることが、ハワイ語学習の前提となる、役に立つということを示している。ハワイ語習得を進める上では、理科学的な要素である自然環境に関する理解が役に立つということを見せていると言える。ハワイの伝統文化には「アロハ・アイナ (Aloha ‘Āina)」、「マールマ・アイナ (Mālama ‘Āina)」<sup>18)</sup>という言葉に表されるような「土地 = アイナ (‘Āina)」とのつながりを大切にするという考えが基軸にある。ハワイを取り巻く自然環境に関する理解とその土地本来の言語であるハワイ語との密接なつながりをより強く意識させる事例であり、州教育省が進める「2030 プロミスプラン」のHawai‘iを具体化した取り組みのひとつであると言えるだろう。

カポレイ高校は過去にも、ハワイの自然の理解から教科の枠を超えた、同じく「ホオラ (Ho‘ola)」という名称をもつプロジェクト型学習の取り組みを行っている。ハワイアン文化をもとにした農業などさまざまな活動を取り入れ、多角的に生徒の学力や精神の伸長を図るものとなっている。従来の学習スタイルとは異なった新たな取り組みとして、2015年にはテレビニュース<sup>19)</sup>にも取り上げられている。理科学的要素と言語教育との融合はベースに学校としてのこのような指導経験があったからということも考えられる。



(Hawaii news Now 2015年4月6日放映)

図8: 教科枠を超えたプロジェクト「Ho'ola」の取組を伝えるニュース

### おわりに

アカウンタビリティへの要求が強まる米国教育界において、州教育省は生徒の学力向上、卒業率や進学率の改善という明確な成果を出したいと考えてきた。その中でとられたのが伝統的なハワイアン文化を尊重した改革である。ハワイ社会は1970年代から続くネイティブハワイアンの権利回復運動にさまざまな影響を受け、ハワイ人問題事務局 (Office of Hawaiian Affairs: OHA) をはじめとする公の機関の設置も進んできた。この教育改革は、健康面も含めさまざまな問題を抱えるネイティブハワイアン生徒のアイデンティティに関わる伝統文化を教育の根底に据えることで、教育全体の底上げを目指したと言える。

この改革で実施されるプログラムの中で、各学校は1980年代から積み上げてきた、地域や運動団体との連携を一層強めている。地域の人々は増設されるチャータースクールを支え、通常学校はハワイ語がわかる地域の人材を活用することで **Kaiapuni** を設置している。そしてこの **Kaiapuni** への入学者は増加しているのである。また、**Kaiapuni** をもたない通常学校でも、外国語として幅をきかせるスペイン語、日本語に次ぐ選択言語としてハワイ語が設置されているという状況である。

全米的に見られる、外国語 (付加言語) 学習の認知面の能力育成に対する関心の高まりに加えて、上記のようなハワイの学校教育の状況は言語学習がスキル習得以上の価値を与えるものであることを改めて認識させる。例えば、前節で挙げたハワイ語とハワイの自然環境との関連を重視した取り組みの事例は、ネイティブハワイアンの生徒でなくとも、自分たちが暮らす自然環境と深いつながりをもつ言語の学びに近いところにいることを生徒に気づかせることになるだろう。

本事例をもって一般化はできないが、他の外国語学習においても、学ぶ言語とその言語が使用される地域の自然環境や文化に目を向ける視点を涵養する機会を増やす可能性を持っているように思われる。また、教員側の言語教育に対する考え方や教育方法についても影響を与える可能性も考えられる。

**Kahakalau** (2017) は語彙や表現に関する知識、運用能力に加えてハワイ先住民の宗教儀礼への関わり方も評価指標に取り入れたハワイ語熟達度指標「**ANA 'ŌLELO**」を提示している<sup>20)</sup>が、学校教育におけるハワイ語学習の機会増加と教育に関するアカウンタビリティー要求に伴って、ハワイ語学習の意義は今まで以上に可視化されていくのではないだろうか。ハワイ州の教育改

革の中で展開されるハワイ語教育の諸相は、他の外国語の教育方法や熟達度に対する考え方にも少なからず影響を与えるように思われる。外国語教育イコール英語教育の日本の学校教育における現状は、ハワイの事例と同列に扱えるものではないが、外国語教育の目的や目標設定、そしてそれに基づく教育方法、評価について考える際に示唆を与えてくれるものにもなると考えている。

本稿は限られた調査や事例に基づいている。今後はさらに多面的に調査を実施し、「世界言語」としての「ハワイ語」の実態について明らかにし、ハワイ社会におけるその意義について考察を深めたい。さらに、目に見える制度面での改革の状況を踏まえて、ハワイ語を含む外国語教育のステークホルダー（生徒、教員、保護者、教育省関係者等）の意識に迫る調査も必要であると考えている。例えば、L2としてハワイ語を学ぶ大学生への調査研究は少数<sup>21)</sup>あるものの、高校生以下についての外国語学習に関する意識調査などは今のところ見当たらない。ネイティブハワイアン以外の生徒の外国語としてハワイ語を学ぶ目的意識や言語習得に対する捉え方についての調査は重要なデータを提供してくれるものと考えられる。

#### 【注】

1) 1993年に法制化された「ネイティブハワイアン（ハワイ先住民）」の定義は、「1778年以前にハワイ諸島に住んでいたハワイ人を祖先に持つ人全て」（Public Law 93-644, Section 813）となっているが、本稿ではこの定義に厳密に則るものではなく、ハワイ先住民文化に対してアイデンティティを感じる生徒、あるいはそのような家庭に育つ者をさして「ネイティブハワイアンの生徒」という表現を用いる。

2) ハワイ語が消滅の危機に瀕し、復活を辿る経緯については松原編著（2010）pp. 18-41に詳しい。

3) <https://www.hawaiipublicschools.org/TeachingAndLearning/StudentLearning/GraduationRequirements/Pages/Seal-of-Biliteracy.aspx>

4) ハワイ語で hopena は「目標」 a'o は「教育」

5) 日本学術振興会 海外学術動向ポータルサイト「教育省、成績不振校の成績好転を目指した努力を継続する 10 州に総額約 9,500 万ドルを助成」（2014 年 05 月 20 日公開）

6) The annual College and Career Readiness Indicators Report. Hawai'i P-20 Partnerships for Education.

7) ハワイ文化に基づいた教育活動 Pedagogy of Aloha を進める団体の主宰者 Ku Kahakalau は 2016 年 2 月のラジオ番組で「ハワイの学校教育の中で最も高い中退率、自殺率を記録するのがハワイアンの男子生徒であり、彼らには 'āina-based programs（大地とのつながりを大切にした教育プログラム）が大切だ」と語っている（Hawai'i Public Radio FEB 5, 2016 Episode 53: Aloha 'āina with Ku Kahakalau）。彼女またハワイ文化に基づくチャータースクールを設立した一人でもある。

8) 近年は SNS や Zoom などのオンラインを活用したハワイ語レッスン、文化講義なども多い。

9) ハワイ語で kula は「学校 (school)」、kaiapuni は「medium (手段)」である。厳密には kula kaiapuni Hawai'i (Hawaiian-medium school) であるが、一般に kaiapuni で「ハワイ語イメージ」を意味する言葉として用いられ、kaiapuni school 等とも表現される。

10) Hawaii News Now 2017 年 6 月 9 日。

11) Career and Technical Education (CTE) はビジネス系や工業系、社会福祉系といった職業の進路に関する基礎的なことを学ぶプログラム。

12) JROTC (Junior Reserve Officer Training Corps) は米軍の指導のもと規律訓練、集団行動や体

かづくりといったことが行われる高校内の連邦政府のプログラム。

13) 例えば、ファーリントンハイスクールというホノルルでも歴史的にフィリピン系の移民が多い地域にある学校ではイロカノ語が設定されている。

14) Data USA: Foreign Language Education の2019年のデータによれば、米国の大学外国語教育分野で学部卒の学位を取得した学生のうち、米国を除いてその数が最も多かった出身国はメキシコであり、53,862人となっている。

15) Zippa The Career Expert のウェブサイト World Language Teacher Demographics in the US によると、2021年9月現在で44.2%。

16) The 5th International Academic Forum Conference on Education (2020年1月10-12日 ハワイ州ホノルル ハワイ州コンベンションセンター)

17) カポレイ高校男性教員、筆者による聞き取り (2020年1月11日)。

18) 「大地 (‘Āina) を愛する(Aloha)」、「大地 (‘Āina) を慈しむ (Mālama)」の意。

19) Hawaii news Now 2015年4月6日放送。

20) 山本 (2019) は「アナ・オレロ (ANA ‘ŌLELO)」の言語教育における学習者要因、学習環境要因の側面からの検討を通じて、指標の活用とそれに基づく目標設定の意義、ハワイの学校教育に与える影響について論じている。

21) 例えば Adams (2018)、Johnson & NeSmith (2017)等。

#### 【参考文献】

- Adams, Kapuaokeko‘olauikaulupua Angelina Leiko. 2018. “Hawaiian language normalization: An analysis of L2 Hawaiian speaker narratives.” *Second Language Studies*, 37(1), 35-75.
- Benham, Maenette. KP. A. & Heck, Ronald H. 2013. *Culture and educational policy in Hawai‘i: The silencing of native voices*. Routledge.
- Beyer, Carl Kalani. 2018. “COUNTER-HEGEMONY IN HAWAI‘I: The Success of the Hawaiian Language Immersion Movement.” *American Educational History Journal*, 45(1/2), 55-71.
- Carreira, Maria. & Kagan, Olga. 2018. “Heritage language education: A proposal for the next 50 years.” *Foreign Language Annals*, 51(1), 152-168.
- Dolly, John P. 1992. “Why are the test scores of public school children so low.” *The Price of Paradise*. Mutual. 211-217.
- Feinga, Jaymee Nanasi. 2016. *Ma ka hana ka ike perpetuating excellence in native Hawaiian education: Native Hawaiian education council members’ approaches to supporting the needs of native Hawaiians* (Doctoral dissertation, University of Southern California).
- Froiland, John Mark., Davison, Mark L., & Worrell, Frank C. 2016. “Aloha teachers: Teacher autonomy support promotes Native Hawaiian and Pacific Islander students’ motivation, school belonging, course-taking and math achievement.” *Social Psychology of Education*, 19(4), 879-894.
- Fu, Jing. 2013. *Teaching for diversity: Addressing diversity issues in responsive ESL instruction*. Michigan State University.
- Goodyear-Ka‘ōpua, Noelani. 2013. *The seeds we planted: portraits of a native Hawaiian charter school*. University of Minnesota Press.
- Hermes, Mary., Bang, Megan., & Marin, Ananda. 2012. “Designing Indigenous Language Revitalization”. *Harvard Educational Review*, 82(3), 381-402.
- Iwase, Jan. 2019. *Leading with Aloha*. Legacy Isle Publishing.

- 
- Johnson, Diane & NeSmith, Keao. 2017. "Talking the Language to Death: Observing Hawaiian Language Classes". *International Journal of Critical Indigenous Studies*, 10(1), 1-20.
- Joshee, Reva, and Johnson, Lauri. 2007. *Multicultural education policies in Canada and the United States*. UBC Press.
- Kahakalau, Kū. 2017. "Developing an Indigenous proficiency scale." *Cogent Education*, 4(1).
- Kaomea, Julie. 2003. "Reading Erasures and Making the Familiar Strange: Defamiliarizing Methods for Research in Formerly Colonized and Historically Oppressed Communities." *Educational Researcher*, 32(2), 14-25.
- Kaomea, Julie. 2005. "Indigenous Studies in the Elementary Curriculum: A Cautionary Hawaiian Example." *Anthropology & Education Quarterly*, 36(1), 24-42.
- Kaomea, Julie. 2019. "Teaching Qualitative Analysis as Ho'oku'iku'i or Bricolage." *Educational Perspectives. Journal of the College of Education, University of Hawai'i at Mānoa*, 50(1), 17-25.
- Kawakami, A. J., & Dudoit, W. 2000. "Ua Ao Hawai'i/Hawai'i Is Enlightened: Ownership in a Hawaiian Language Immersion Classroom." *Language Arts*, 77(5), 384-390.
- Leeman, Jennifer. 2015. "Heritage Language Education and Identity in the United States." *Annual Review of Applied Linguistics*, 35, 100-119.
- Li, Sidney C. 2015. "Advancing Multicultural Education: New Historicism in the High School English Classroom." *The High School Journal*, 99(1), 4-26.
- Mahi, Dawn. 2013. "The Children of Kalihi." *Reclaiming Children and Youth*, 22(1), 50.
- McCarty, Teresa & Lee, Tiffany. 2014. "Critical Culturally Sustaining/Revitalizing Pedagogy and Indigenous Education Sovereignty." *Harvard Educational Review*, 84(1), 101-124.
- McDougall, Brandy Nālani & Nordstrom, Georganne. 2011. "Ma ka Hana ka 'Ike (In the Work Is the Knowledge): Kaona as Rhetorical Action." *College Composition and Communication*, 63(1), 98-121.
- Miyares, Ines M. 2008. "Expressing 'Local Culture' in Hawai'i." *Geographical Review*, 98(4), 513-531.
- National Commission on Excellence in Education. 1983. *A nation at risk: the imperative for educational reform : an open letter to the American people ; a report to the nation and the secretary of education*.
- Ohara, Yumiko. 2016. "Re-inventing Hawaiian Identity Conception of Ethnicity and Language in the Language Revitalisation Movement." *Internationales Asienforum*. 47(1-2), 57-80.
- Osorio, Jonathan Kamakawiwo'ole. 2001. "'What kine Hawaiian are you?': A Mo'olelo about Nationhood, Race, History, and the Contemporary Sovereignty Movement in Hawai'i." *The Contemporary Pacific*, 13(2), 359-379.
- Rivers, William P. & Brecht, Richard D. 2018. "America's languages: The future of language advocacy." *Foreign Language Annals*, 51(1), 24-34.
- Roberts, Kelly D., Takahashi, Kriko., & Park, Hye Jin. 2018. "The Impact of Project Ho'oku'i Participation on Native Hawaiian High School Students' Perceptions of High School and College Coursework." *High School Journal*, 101(3), 199-210.
- Roth, Randall W., Mak, James, & Suyderhoud, Jack. P. 1992. *The price of paradise: lucky we live Hawaii*. Honolulu, HI: Mutual.

- Schütz, Albert J. 2020. *Hawaiian language*. University of Hawai‘i Press.
- Spiro, Jane. & Crisfield, Eowyn. 2018. *Linguistic & cultural innovation in schools : the languages challenge*. Palgrave Macmillan.
- Stender, Robert Holoua. 2010. *Kū i ke ao: Hawaiian cultural identity and student progress at Kamehameha Elementary School*. University of Southern California.
- Twomey, Sarah Jane.& Johnson, Richard T. (ed.). 2019. *Living Teacher Education in Hawai‘i: Critical Perspectives*. University of Hawai‘i Press.
- Wurdeman-Thurston, Katherine W. & Kaomea, Julie. 2015. “Fostering Culturally Relevant Literacy Instruction: Lessons from a Native Hawaiian Classroom.” *Language Arts*, 92(6), 424-435.
- Yamauchi, Lois A., Ceppi, Andrea K., & Lau-Smith, Jo-Anne. 2000. “Teaching in a Hawaiian Context: Educator Perspectives on the Hawaiian Language Immersion Program.” *Bilingual Research Journal*, 24(4), 385-403.
- 井上昭洋 (2014) 「ハワイ人主権運動の歴史的考察」, 『天理大学地域文化研究センター紀要 アゴラ』, 11, pp. 1-31.
- (2019) 「Aloha‘Āina Unity March に見るハワイ人主権運動の現在」『天理大学人権問題研究室紀要』 22, pp. 1-19.
- 大谷泰照 (2012) 『時評 日本の異言語教育-歴史の教訓に学ぶ-』 英宝社.
- (2020) 『日本の異言語教育の論点 : 「ハッピー・スレイヴ症候群」からの覚醒』 東信堂.
- 奥田邦男, 奥田久子 (2003) 「New Trends in Foreign Language Education in the U.S.」『福山大学人間文化学部紀要』 3, pp. 55-67.
- 尾関史 (2017) 「継承語話者・外国語話者・母語話者が共に学ぶ教室での日本語学習の意味: ハワイの高校の日本語クラスでの『言語ポートレート』活動からの考察」『母語・継承語・バイリンガル教育研究』 13, pp. 156-171.
- 吉良直 (2009) 「どの子ども置き去りにしない(NCLB)法に関する研究 : 米国連邦教育法の制定背景と特殊性に着目して」『教育総合研究 : 日本教育大学院大学紀要』 2, pp. 55-71.
- ジェニングズ, ジャック (2018) 『アメリカ教育改革のポリテイクス-公正を求めた 50 年の闘い』 東京大学出版会.
- 竹口智之 (2007) 「継承語学習者は言語をいかに捉えているか」『社会言語科学』 9(2), pp. 53-64.
- 知念聖美, タッカーリチャード G. (2006) 「米国における継承日本語習得: エスニックアイデンティティと補習授業校との関係」『母語・継承語・バイリンガル教育研究』 2, pp. 82-104.
- 拝田清 (2013) 「米国の外国語教育政策に見る言語文化教育観—初中等教育を中心に—」『言語教育研究』 3, pp. 33-42.
- 松尾知明 (2008) 『文化概念の再考—アメリカ合衆国の多文化教育の視点から—』 ナカニシヤ出版.
- 松原好次 (1995) 「ハワイにおけるハワイ語再生運動: ワイアウ小学校のハワイ語イマージョン・プログラムを中心に」『湘南国際女子短期大学紀要』 3, pp. 41-99.
- (1999) 「クラ・アヌエヌエにおけるハワイ語復権の試み」『湘南国際女子短期大学紀要』 6, pp. 53-62.
- (2004) 『ハワイ語復権運動の現況』 関西学院大学出版会.

- 
- (2006) 「ハワイ語再活性化運動の現況-ナーヴァヒー校卒業生に対する追跡調査報告」『電気通信大学紀要』19(1-2), pp. 117-128.
- (2008) 「言語的マイノリティのための言語政策-少数言語話者の言語権を求めて」『湘南国際女子短期大学紀要』15, pp. 129-141.
- 松原好次編著 (2010) 『消滅の危機にあるハワイ語の復権をめざして-先住民族による言語と文化の再活性化運動』明石書店.
- 山本享史 (2004) 『ハワイにおける先住民主権回復運動とハワイの教育の関わりについて-1980年代オアフ島ワイアナエ地区の教育プログラムを中心に-』奈良教育大学大学院修士論文.
- (2005) 「米国の多文化教育の展開-1980年代のハワイの教育事例を通して-」『アメリカス世界のなかの「帝国」』天理大学アメリカス学会編, pp. 201-215, むさし書房.
- (2019) 「米国の付加言語教育における言語熟達度指標の意義 -ハワイ語熟達度指標 ANA 'ŌLELO の事例から-」『アメリカス研究』24, pp. 77-96.

【参考ウェブサイト】

- ACTFL. <https://www.actfl.org/> (2021年9月28日アクセス)
- Center for Applied Linguistics. <https://www.cal.org/> (2021年9月28日アクセス)
- College & Career Readiness Indicators Report (CCRI). [http://hawaiiidxp.org/research/ccri\\_reports](http://hawaiiidxp.org/research/ccri_reports) (2021年9月28日アクセス)
- Data USA: Foreign Language Education. <https://datausa.io/profile/cip/foreign-language-teacher-education#institutions> (2021年10月31日アクセス)
- Hawaii Association of Language Teachers (HALT). <http://halthome.org/> (2021年9月28日アクセス)
- Hawaii State Department of Education. <https://www.hawaiipublicschools.org/Pages/Home.aspx> (2021年9月28日アクセス)
- Hilo High School. <https://www.hilohs.k12.hi.us/> (2021年9月28日アクセス)
- Kapolei High School. <https://www.kapoleihigh.org/> (2021年9月28日アクセス)
- Kū-A-Kanaka. <https://www.kuakanaka.com/> (2021年9月28日アクセス)
- Ku Kahakalau Farrington HS. Honolulu Civil Beat. <https://www.civilbeat.org/2016/11/native-hawaiians-dont-know-what-to-expect-from-trump/ku-kahakalau-farrington-hs/> November 11, 2016. (2021年9月28日アクセス)
- The Seal of Biliteracy. <https://sealofbiliteracy.org/> (2021年9月28日アクセス)
- Zippa The Career Expert. World Language Teacher Demographics in the US. <https://www.zippia.com/world-language-teacher-jobs/demographics/> (2021年10月31日アクセス)